

大網白里町財政事情

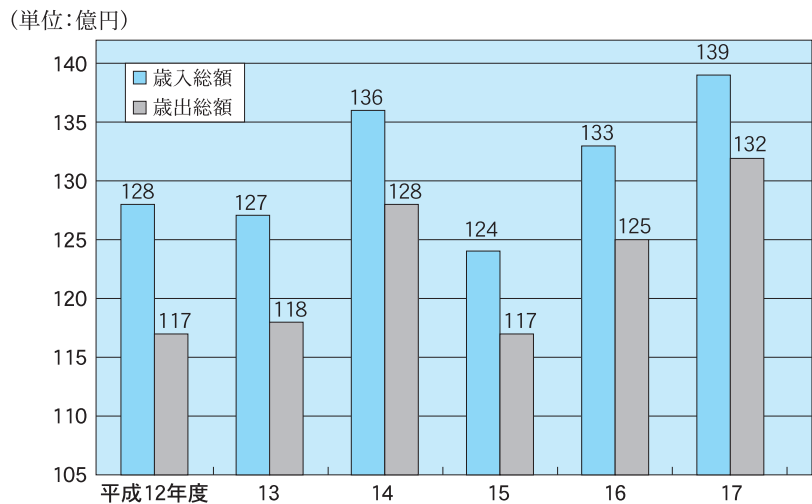
平成18年11月1日発行
 発行：大網白里町
 問合せ先：財政課財政係 ☎(70)0310

この財政事情は、「大網白里町財政事情の作成及び公表に関する条例(昭和29年12月1日条例第29条)」の規定により公表するものです。

町では、皆さんからお預かりした税金や町債などがどのように使われているのかを知っていただくため、町の財政状況を公表しています。今回は、財政特集として、平成17年度決算概要と平成18年度上半期(4~9月)の予算の執行状況をお知らせするとともに、町のバランスシートを併せて公表します。(各項目の計数は、表示単位未満を四捨五入したものです。このため、内訳は合計と一致しない場合があります。)

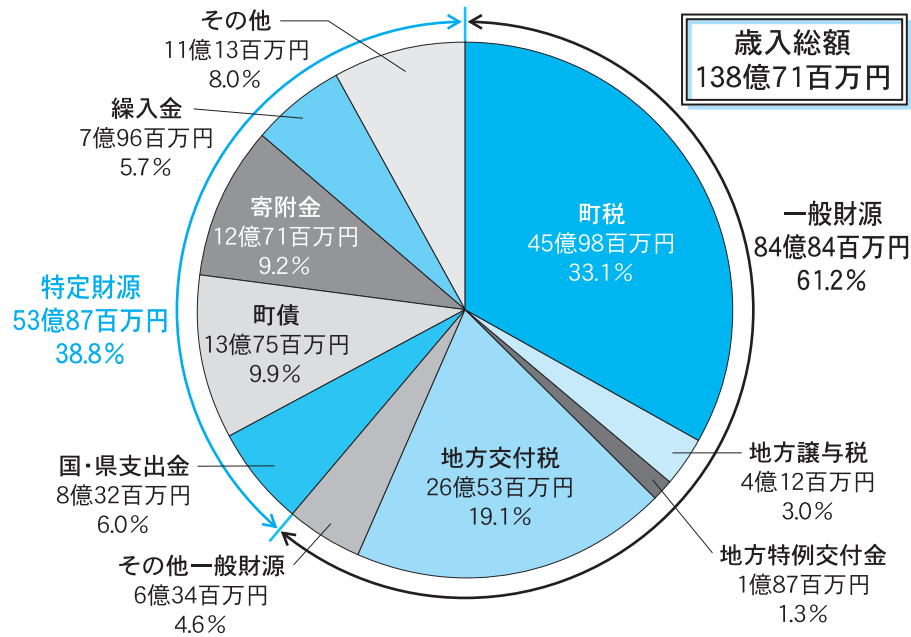
◆ 一般会計 決算規模

平成15年度から17年度にかけて、決算規模が増加しているように見えますが、これは、平成16年度に制度的な地方債の借り換え(約8億円)が行われたこと、また、平成17年度に企業寄附金(約10億円)の物納処理が行われたことによるものであり、それらの影響を除くと、実質的にはほぼ横ばい傾向にあると言えます。



◆ 一般会計 歳入

本町の歳入は、町税が3分の1を占め、ついで、地方交付税、町債の順となっています。また、一般財源が全体の6割を占めています(一般財源とは、用途の特定されていない財源をいいます。町がさまざまな行政ニーズに対応するためには、一般財源の確保が極めて重要となります)。



◆ 一般会計 決算収支

実質収支は、昨年度に引き続き黒字となり、単年度収支の赤字幅も縮小しました。

また、財政調整基金からの繰入金が増加したため、実質単年度収支の赤字幅も縮小しました。

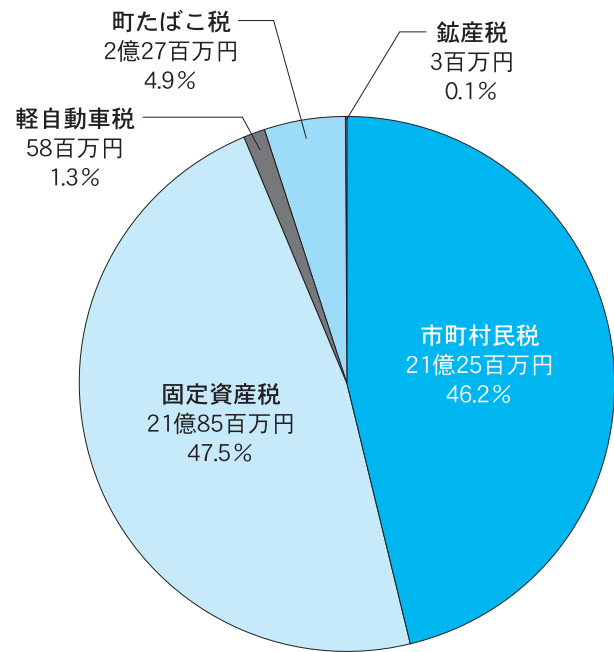
(単位:百万円)

区分	17年度	16年度
実質収支	374	377
単年度収支	△2	△30
実質単年度収支	△379	△547

- **実質収支**
歳入歳出差引額から翌年度に繰り越すべき財源を控除した額
- **単年度収支**
当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額
- **実質単年度収支**
単年度収支に、財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還額を加え、財政調整基金の取り崩し額を差し引いた額

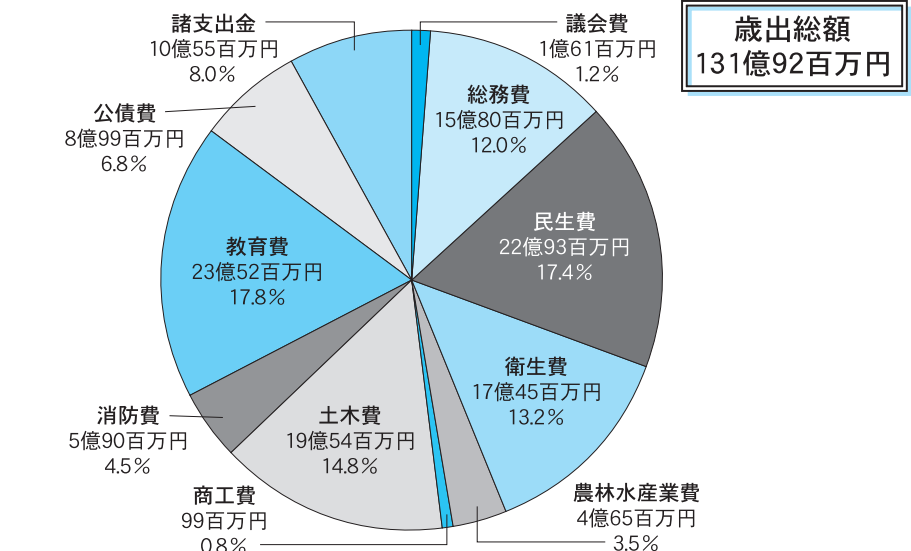
◆ 町税の税収構成

町税では、市町村民税と固定資産税の割合が高くなっています。なお、市町村民税は、個人町民税と法人町民税に分かれますが、本町では個人町民税がその9割以上を占めています。



◆ 一般会計 歳出(目的別分類)

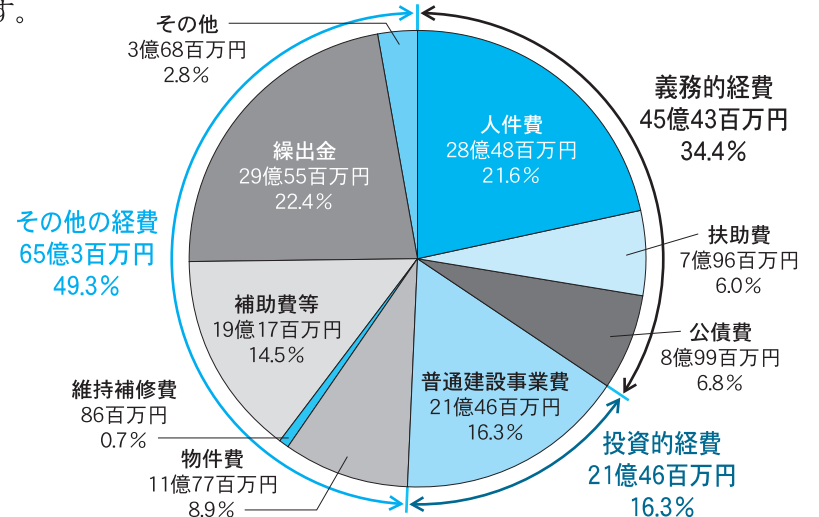
使われた費用を行政目的別に分類すると、教育費、土木費、民生費などに多くの財源が使われていることがわかります。



- 教育費…学校教育、社会教育、スポーツ振興などに使われる費用
- 民生費…児童、高齢者、心身障害者等のための福祉費用
- 土木費…道路、河川、住宅、公園などの建設整備費用
- 公債費…借入金の元金・利子などの支払費用

◆ 一般会計 歳出(性質別分類)

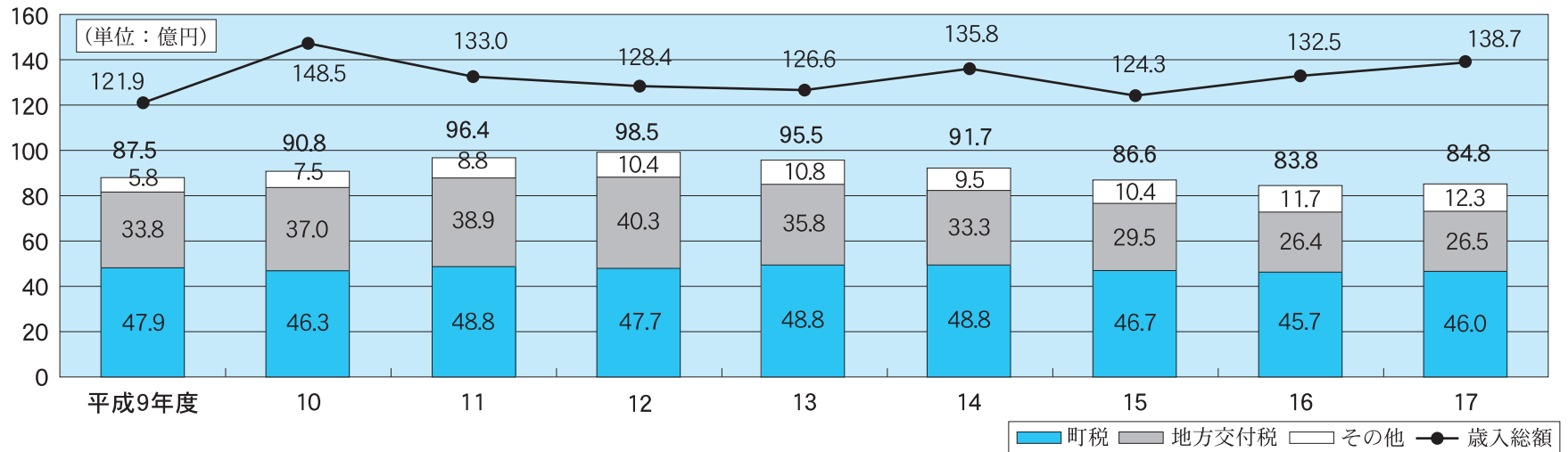
使われた費用を性質別に大きく分類すると、任意に削減することが困難な「義務的経費」(人件費、扶助費、公債費)と、普通建設事業などに充てられる「投資的経費」、それ以外の「その他の経費」に分けることができます。



- 扶助費…社会保障制度の一環として、児童、高齢者、障害者等を援助するための経費
- 補助費等…団体等への負担金や補助金
- 緑入金…他会計や定額運用基金に支出する経費

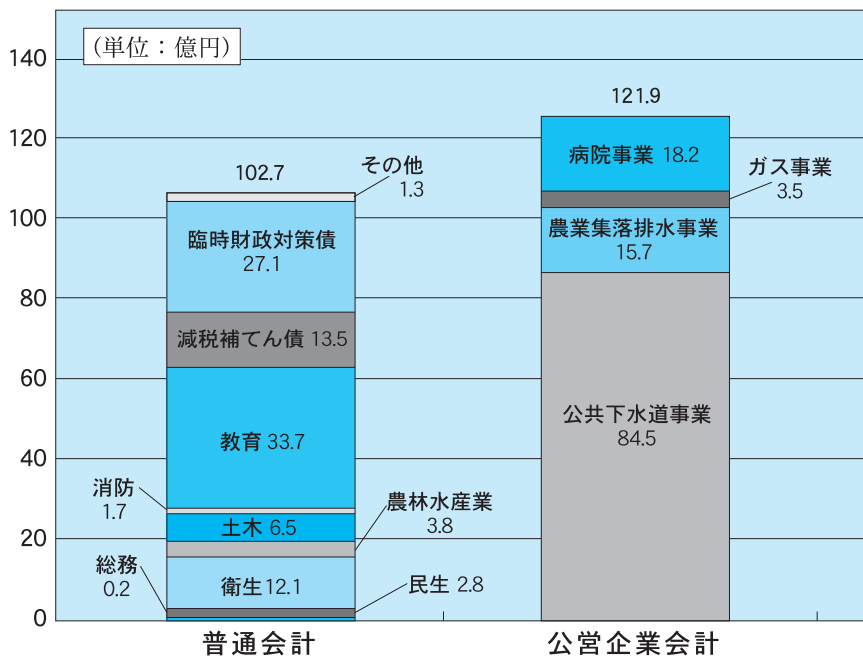
◆ 一般財源の推移（一般会計）

平成13年度以降、不況による税収の減少に加え、国の『三位一体改革』により地方交付税が削減されているため、一般財源は減少傾向にありましたが、景気のゆるやかな回復によって平成17年度はやや増加しています。



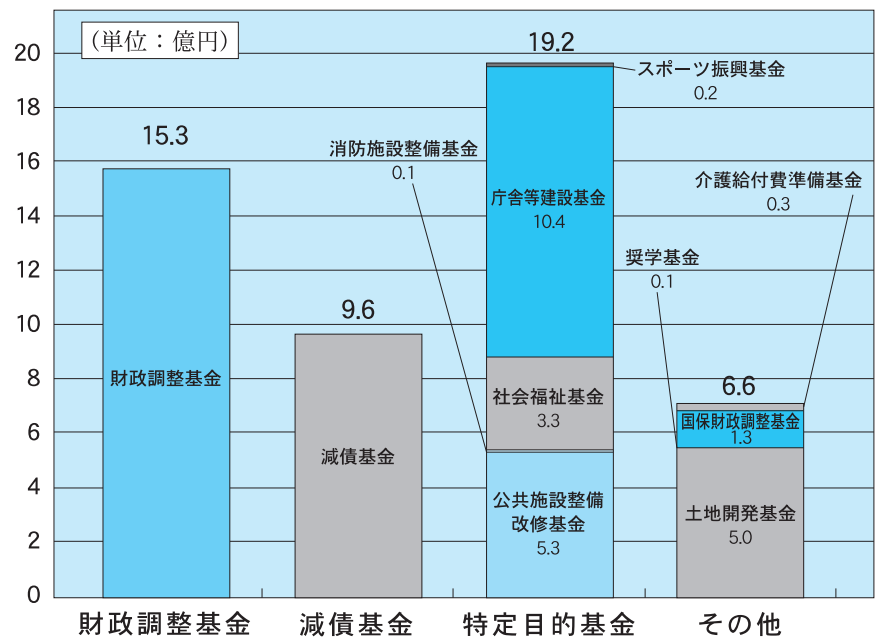
◆ 借入残高

本町の借入残高は、平成17年度末で、約224億6千万円です。



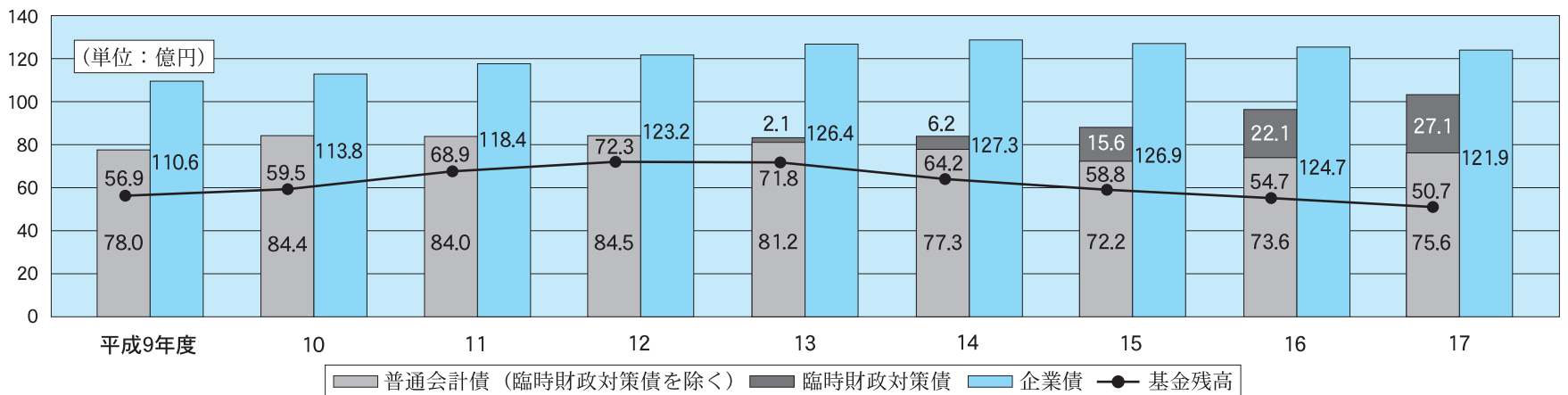
◆ 基金残高

本町の基金残高は、平成17年度末で約50億7千万円です。



◆ 借入残高と基金残高の推移

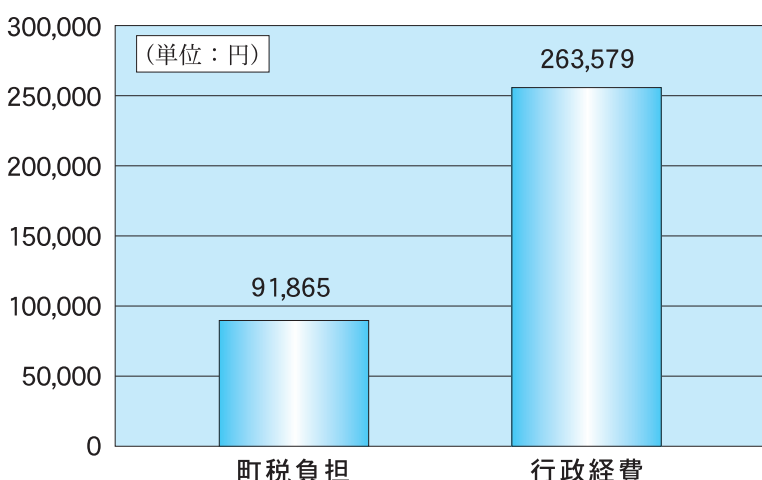
地方交付税が大幅に減額され、臨時財政対策債に振り替えられたため、町全体の借入残高は増加傾向にあります。しかし、臨時財政対策債以外の借入残高は総じて減少傾向にあります。また、町税の減収や地方交付税の削減などによる財源不足を補うため、財政調整基金などが取り崩されていることから、基金残高は減少傾向にあります。



臨時財政対策債…地方交付税の減額に伴い、その振り替え措置として導入された地方債。
臨時財政対策債の元利償還金は、全額、後年度に地方交付税の基準財政需要額に算入されることとなる。

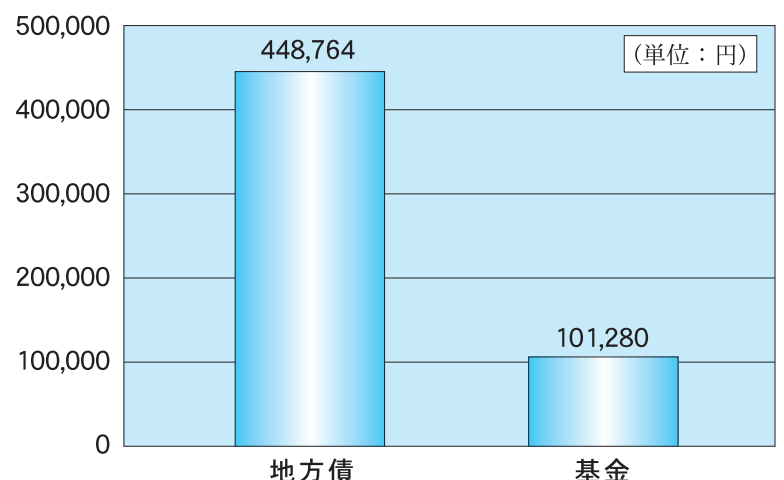
◆ 町民1人当たりの町税負担と行政経費

町民1人当たりの町税負担額に対して、行政経費は約3倍となっています。



◆ 町民1人当たりの地方債（借入金）と基金（貯金）の残高

町民1人当たりの基金（貯金）残高に対して、地方債（借入金）残高は約4倍となっています。

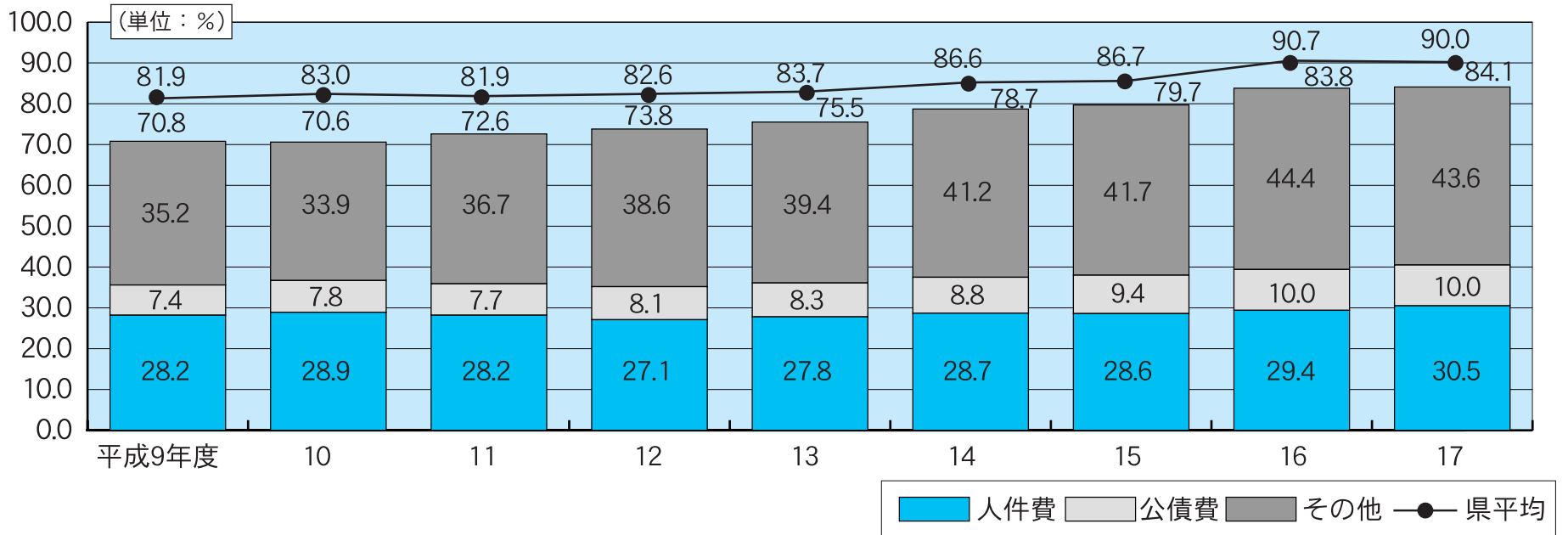


※住民基本台帳人口 50,048人(平成18年3月31日現在)

◆ 経常収支比率の推移

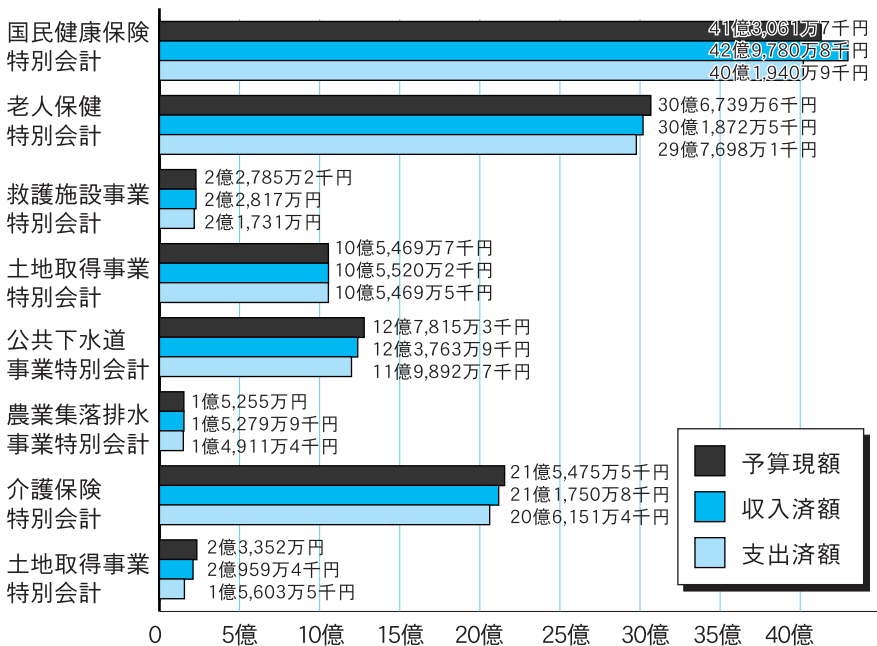
毎年支出が必要となる義務的経費が増加傾向にある一方で、経常一般財源が減少傾向にあるため、経常収支比率は上昇しています。

一般に、経常収支比率は財政構造の弾力性を表す指標と言われています。この比率が高くなるほど財政構造の弾力性がなくなり、社会経済や行政需要の変化に適切に対応していくことが難しくなっているとされます。(経常収支比率とは、毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源の額が、地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源、減税補てん債および臨時財政対策債の合計額に占める割合のことを言います。)



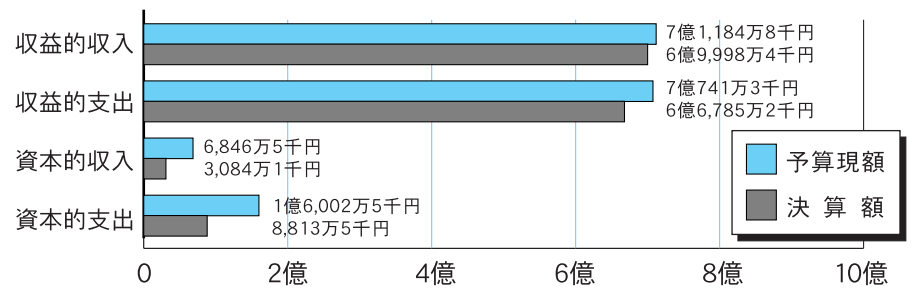
◆平成17年度 特別会計決算状況

特別会計の決算状況

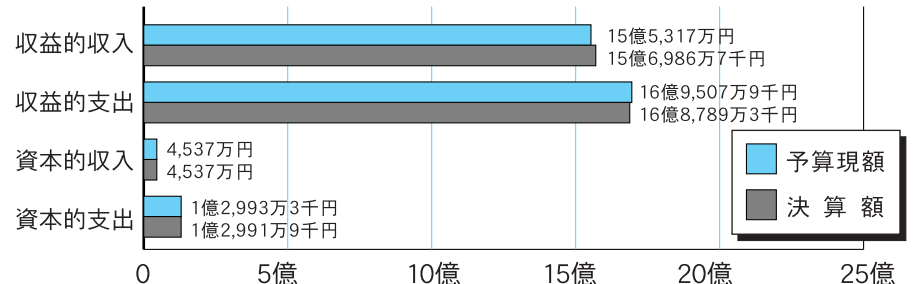


◆平成17年度 企業会計決算状況

ガス会計の決算状況

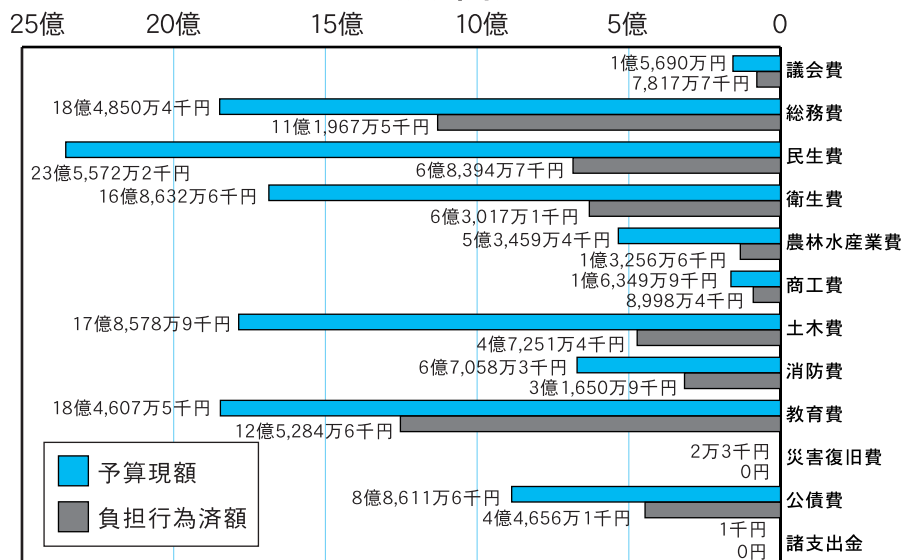


病院会計の決算状況

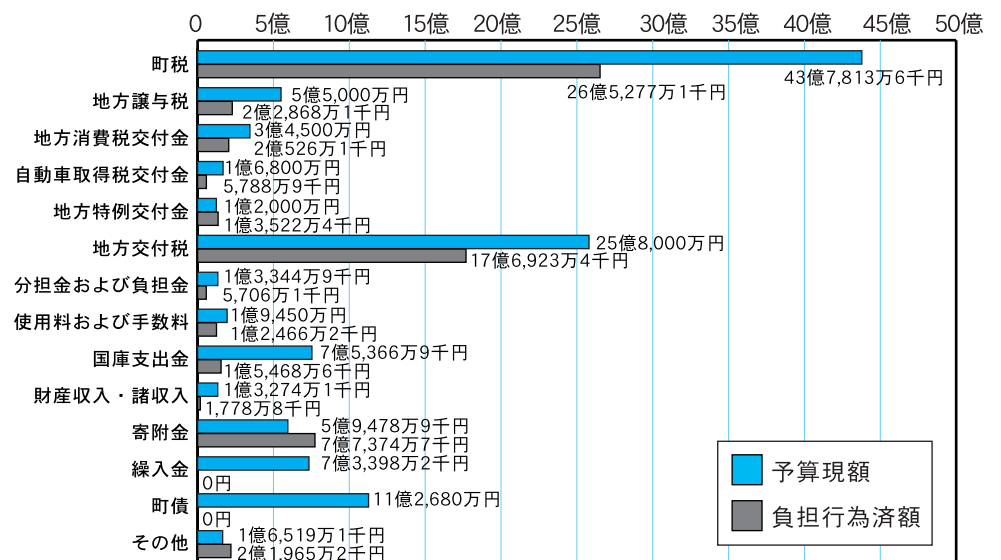


◆平成18年度 一般会計上半期(4~9月)の予算執行状況

(歳出)



(歳入)



◆平成18年度 特別会計上半期(4~9月)の予算執行状況

会計名	予算現額	収入済額	収入率	負担行為済額	負担行為率
国民健康保険	4,340,055	1,453,888	33.5	1,717,054	39.6
老人保険	2,990,619	1,208,744	40.4	1,209,139	40.4
救護施設事業	225,098	88,711	39.4	113,632	50.5
土地取得事業	74,682	507	0.7	0	0.0
公共下水道事業	1,343,993	137,622	10.2	620,743	46.2
農業集落排水事業	161,509	14,470	9.0	76,286	47.2
介護保険	2,275,302	966,594	42.5	885,569	38.9
土地区画整理事業	265,477	2,628	1.0	96,435	36.3

◆平成18年度 企業会計上半期(4~9月)の予算執行状況

区分	予算現額	収入済額/負担行為済額	率
ガス収益的収入	712,066	273,603	38.4
ガス収益的支出	713,689	275,598	38.6
ガス資本的収入	25,366	818	3.2
ガス資本的支出	97,897	25,054	25.6
病院収益的収入	1,849,678	815,080	44.1
病院収益的支出	1,849,678	869,054	47.0
病院資本的収入	43,456	0	0
病院資本的支出	97,685	34,400	35.2

大網白里町のバランスシート

平成18年3月31日現在

単位：千円

[資産の部]	普通会計	その他の会計	計	対前年度比
1 固定資産	42,129,530	30,818,273	72,947,803	102.35%
(1) 総務費	1,769,779	0	1,769,779	96.66%
(2) 民生費	1,314,458	0	1,314,458	95.76%
(3) 衛生費	2,352,745	0	2,352,745	95.28%
(4) 農林水産業費	1,849,302	0	1,849,302	98.27%
(5) 商工費	141,799	0	141,799	112.97%
(6) 土木費	12,556,642	0	12,556,642	106.50%
(7) 消防費	350,641	0	350,641	99.85%
(8) 教育費	21,789,679	0	21,789,679	110.22%
(9) その他	4,485	30,818,273	30,822,758	97.28%
2 投資等	5,977,659	107,367	6,085,026	100.42%
(1) 投資及び出資金	3,460,846	0	3,460,846	104.93%
(2) 貸付金	93,340	0	93,340	100.00%
(3) 基金	2,423,473	32,509	2,455,982	94.77%
(4) 退職手当積立金	0	0	0	
(5) その他	0	74,858	74,858	97.98%
3 流動資産(現金、預金など)	4,304,085	3,099,230	7,403,315	106.35%
(1) 現金・預金	3,230,955	1,657,010	4,887,965	106.03%
(2) 未収金	1,073,130	1,414,222	2,487,352	107.06%
(3) その他	0	27,998	27,998	107.98%
4 繰延勘定	0	68,064	68,064	87.50%
資産合計	52,411,274	34,092,934	86,504,208	102.52%

単位：千円

[負債の部]	普通会計	その他の会計	計	対前年度比
1 固定負債	10,848,293	12,184,374	23,032,667	101.68%
(1) 地方債	9,597,240	11,683,356	21,280,596	101.90%
(2) 債務負担行為	0	0	0	
(3) 引当金	1,251,053	501,018	1,752,071	99.08%
退職給与引当金	1,251,053	498,996	1,750,049	99.08%
その他の引当金	0	2,022	2,022	100.05%
2 流動負債	672,935	728,962	1,401,897	103.74%
(1) 翌年度償還予定額	672,935	506,223	1,179,158	101.65%
(2) 翌年度繰上充用額	0	0	0	
(3) 他会計借入金・翌年度償還予定額	0	0	0	
(4) その他	0	222,739	222,739	116.38%
負債合計	11,521,228	12,913,336	24,434,564	101.79%

[正味資産の部]	普通会計	その他の会計	計	対前年度比
正味資産合計	40,890,046	21,179,598	62,069,644	102.82%

[負債+正味資産]	普通会計	その他の会計	計	対前年度比
負債・正味資産合計	52,411,274	34,092,934	86,504,208	102.52%

注…普通会計バランスシートは、国(総務省)の示した基準に基づき作成したものです。また、普通会計以外のバランスシートについては、国(総務省)の作成基準を参考にして、町独自で作成したものです。

- 普通会計＝一般会計、介護施設事業・土地取得事業・土地区画整理事業特別会計
- その他の会計＝国民健康保険、老人保健、公共下水道事業、農業集落排水事業、介護保険事業、ガス事業、病院事業の各特別会計

「町の資産はどのくらい?」「借金の額は?」「経営状況はどうなっているの?」……このような疑問にお答えするため、町では、昨年度に引き続きバランスシートを作成して皆さんに公表することにしました。

これまで町の決算資料では、主に1年間の歳入と歳出の状況について説明してきましたが、バランスシートでは、過去からの積み重ねによる財産、また、将来返済しなければならない債務を示すことができるようになってきました。そのため、より幅広い視点から財政状況を判断することができるようになります。

それでは、これから皆さんと一緒にバランスシートを見てみましょう。

まず、表の左側に「資産の部」と書かれた項目がありますが、ここには町が保有する財産の内容が示されています。

「固定資産」は、土地や建物などの、いわゆる不動産をさしたものであり、建物については耐用年数に応じて減価償却した後の価格を、土地については取得した際の価格を計上しています。

上の表で見えていくと、普通会計では、固定資産のうち、商工費、教育費、土木費がそれぞれ増加していますが、これは、商工費については白里海岸駐車場、教育費については大網白里アリーナ、土木費については道路用地などが固定資産として新たに追加されたことによるものです。

なお、「その他の会計」にも約308億円にのぼる固定資産がありますが、これは、下水道施設(浄化センターや管きょなど)、国保大網病院やガス施設などが主な内訳となっています。

資産のうち「投資等」は、町が出資金・貸付金として投資しているもののほか、社会福祉や公共施設の建設などに充てるため積み立てている基金などが挙げられます。出資・貸付金の主な相手方は、九十九里地域水道企業団、山武郡市広域水道企業団、国保大網病院などとなっています。

「流動資産」は、1年以内に現金化することが可能な資産であり、年度間の財政調整のために用いられる財政調整基金や地方債の償還に充てる減債基金、歳計現金(年度末の歳計剰余金)のほか、町税の未収金などもこれに含まれています。

町が保有する資産の総額は、普通会計、その他の会計を合わせて865億420万8千円にのぼります。これらの資産は、将来にわたり行政サービスを提供していくための資源として活用されていきます。

次に、表の右上側を見ると、「負債の部」と書かれた項目があります。

「負債」は、町が将来返済しなければならない借金をあらわしたものです。施設の建設など、

資産を増やすために借り入れた地方債の償還金が負債の主な内容となっています。負債は将来にわたる債務であり、次世代が負担する借金でもあります。負債が増加することにより、毎年度、この返済に充てなければならない財源も増加していくこととなりますので、あまりにも大きな負債をかかえることは、財政の硬直化を招く一因となります。

表の右下の「正味資産の部」は、資産を取得するために使われた金額のうち、既に支払いを終えているものをいいます。「負債」が資産を増やすために借り入れた借金であり、今後、返済していかなければならないものであるのに対し、「正味資産」は、資産を取得するための財源となった国や県の補助金、町税や交付税など既に支払いが済んでいるものをいいます。負債が「これからの世代が負担するもの」であるのに対し、正味資産は、いわば「これまでの世代が負担してきたもの」といえるでしょう。

本町のバランスシートを見てみますと、町全体で、資産が865億420万8千円、負債が244億3,456万4千円、正味資産が620億6,964万4千円となっています。バランスシートでは、資産に対し正味資産の割合が高いほど財政の健全性が高まるといわれていますが、本町の場合も、資産に対する正味資産の割合が71.75%と、引き続き高水準を維持しています。ただし、一方では、負債額が前年度と比較して1.79%の増となるなどの課題も見受けられます。負債の増加に伴い、将来の世代への負担も高まっていくことから、これらを今後の検討課題としてとらえるとともに、引き続き、行財政の見直しをすすめ、健全な財政運営の推進に努めていきます。

バランスシートのイメージ

